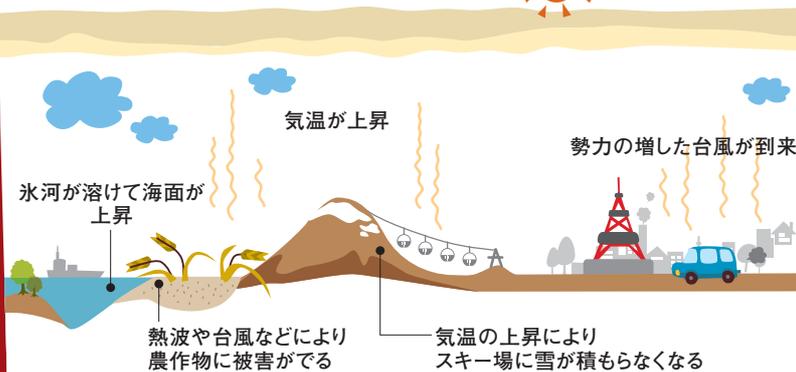


■地球温暖化の影響



このままだとどうなるのでしょうか？

札幌も深刻な事態に

地球温暖化の影響について国立環境研究所などの研究チームが試算を行いました。その結果、「日本の真夏日は、二〇五〇年ころには現在の倍の百日を上回るようになり、二一〇〇年には百四十日前後まで増加する」と予測をしています。

また、気象庁気象研究所は、「温暖化で大気中の水蒸気が増え、台風の勢力も強まる」という分析結果を発表。到来する台風が強大になれば、風水害の被害が今以上に深刻になります。

まだ重大な問題が...

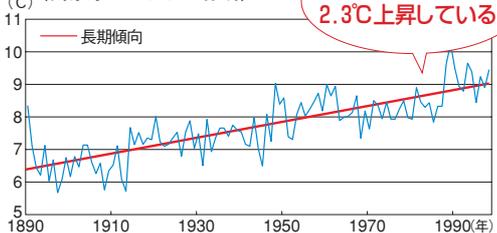
さらに、国連環境計画とチューリヒ大学（スイス）の報告では、「地球温暖化がこのまま進めば、今後三十〜五十年の間に標高千五百メートル以下のスキー場（札幌近郊のほとんど）では雪が積もらなくなる」と警鐘を鳴らしています。

私たちの生活に必要な「水」や「食料」が世界的に不足する可能性もあります。国連は、「熱波などの異常気象により、今後百年以内に中国の米の収穫が八割減り、ブラジルやインドの小麦の収穫も大幅に減少するなど、深刻な食料不足が来る可能性がある」と警告しています。ほとんどの食料を輸入に頼っている日本は、食料危機を迎える可能性の最も高い国の一つなのです。

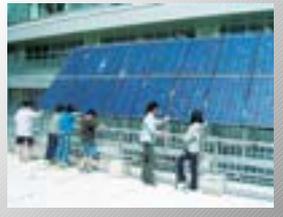
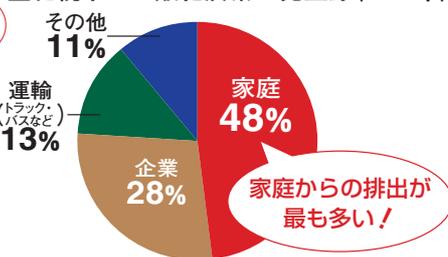
では、どうすればいいのでしょうか？

地球の温暖化を止めるには、その原因となっている二酸化炭素の発生量を減らす必要があります。一人ひとりが「二酸化炭素をできるだけ出さない行動をとる」以外に方法はないのです。その行動とは、資源やエネルギーの無駄遣いをやめること（次ページ参照）。今の暮らしを少しずつ見直してみましよう。

■札幌市の平均気温の推移 (気象庁データより作成)



■札幌市の二酸化炭素の発生源 (2000年)



最大10キロワットの発電をすることができる太陽光発電施設 (中央区の資生館小学校)



パネルには太陽光による発電量とそれによる二酸化炭素の削減量などが表示されます

市の取り組みは？

市では、地球温暖化を防止するため、市民・事業者・行政が一体となって「二酸化炭素の発生量を10%削減する」ことを目指しています。そのために、市が率先してエネルギーの有効利用をはじめとする環境行動に取り組んでいるほか、市民への情報提供や市民の皆さんと一緒に取り組む活動などを進めています。

市役所は環境に関する国際規格・ISO14001を取得しています



市役所1階ロビーに展示している登録証

ISO14001 (環境マネジメントシステム) とは、環境負荷をできる限り減らすように配慮しながら事務事業を行っていくための仕組み。全庁的に取り組んでいるのは政令指定都市では札幌市だけです。この取り組みにより、15年度は14年度と比較して二酸化炭素の発生量を4%削減することができました。

小学校などに太陽光発電施設や学校ビオトープを作っています

学校での環境教育を進めるため、小学校などに太陽光発電施設や学校*ビオトープを毎年作っています。現在、太陽光発電施設を4校、学校ビオトープを13校に設置しています。これらの学校では、子どもたちが体験しながら、地球環境について学んでいます。

*ビオトープ…動植物が生育できるように造成された小規模な空間。ドイツ語で「ビオ」は生物、「トープ」は場所の意味。

「環境プラザ」から環境情報を発信しています

楽しみながら地球温暖化の仕組みなどを学ぶことができる施設で、講座やイベントも開催しています。まだ来たことのない方は、ぜひ一度足を運んでみてください。ホームページでもさまざまな情報を発信しています。

利用案内 所在地/北区北8西3札幌エルプラザ2階札幌駅直結 ☎728-1667 ホームページ

http://www.kankyo.sl-plaza.jp



地球温暖化について学ぶことができる「環境プラザ」